

令和8年滋賀県立美術館 第一期企画展（仮）

2026年4月17日（金）— 6月21日（日）

1. 趣旨：

本展は滋賀県立美術館の所蔵作品を、様々なユニークな方法で鑑賞いただく展覧会です。

本展では10種の特別な鑑賞方法を提案します。例えば、畳の上に靴を脱いで上がって寝そべったり座布団に座って作品を見たり、双眼鏡を使って全体と細部を見比べたり、暗闇で懐中電灯を頼りに作品のかたちを浮かび上がらせたり。いずれも、子どもにはわくわくするような作品との出会いを、大人には作品の意外な魅力の発見を、本展ならではの能動的な鑑賞体験を提供します。

本展の開催を通して、当館が誇るコレクションを多角的に味わう楽しさをお届けし、滋賀県立美術館をより親しみやすく感じていただくことを目指します。

2. 会期

2026年4月17日（金）— 6月21日（日）

9:30—17:00（入場は16:30まで）

休館日：月曜日

ただし5月4日（月・祝）— 6日（水・振休）は開館、7日（木）は休館

3. 会場

滋賀県立美術館 展示室3

4. 実施体制

主催：滋賀県立美術館、京都新聞

後援：エフエム京都（仮）

企画：平田健生（滋賀県立美術館 主任学芸員）

5. 観覧料

一般 950円（800円）

高大生 600円（500円）

小中生 400円（300円）

※（ ）内は20名以上の団体料金

※同時開催中の常設展もご覧いただけます。

※身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳・療育手帳などをお持ちの方と、その介助者の方は無料

7. 出品作家（予定）※姓の五十音

鰐 嘸、浅岡 慶子、マグダレーナ・アバカノヴィッチ、カール・アンドレ、五十嵐 彰雄、今井 祝雄、アンディ・ウォーホル、大林 千萬樹、奥村 土牛、クレス・オルデンバーグ、加納 光於、角 喜代則、川村 悦子、ワシリー・カンディンスキー、岸 竹堂、北山 善夫、神山 清子、古久保 憲満、小松 均、澤田 真一、志村 ふくみ、クルト・シュヴィッターズ、庄田鶴友、杉本哲郎、クリフォード・スティル、リチャード・セラ、ジム・ダイン、篠原 有司男、武田 浪、中村 康平、マルセル・デュシャン、富田 溪仙、ケネス・ノーランド、福岡 道雄、藤岡 佑機、コンスタンティン・ブランクーシ、森川 曾文、ロバート・モリス、山形 博導、山口 善造、山元 春挙、吉田 善彦、マーク・ロスコ、カルロス・ロロン
計 44 作家（予定）

8. 出品作品数（予定）

52 件（一部展示替えあり）

9. 関連イベント（現状案 ※内容検討中）

- (1) ギャラリートーク（大人向け／子ども向け）
講師：平田健生（滋賀県立美術館 主任学芸員）
- (2) たいけんびじゅつかん（親子で参加する鑑賞&創作ワークショップ）
講師：当館ラーニングチーム
- (3) ドロップインワークショップ（会場出口に飛び入り参加できる）

10. 章構成：作品の見かたをかえる 10 の「トライ」

各章を「トライ〇」とカウントし、下記の 10 章で構成。

(1) トライ 1：色をみつけよう

カラーチャートで作品の中にある色彩を探索し、その名前を知ろう。
主な出品作品：鰐 嘸の版画、アーシル・ゴーキーやカルロス・ロロンの油彩画。
志村ふくみの絨織着物等、多彩な色彩が特徴の作品。

(2) トライ 2：寝そべってみよう

畳に寝そべったり座布団に座ったりして、新しい視線の高さで作品と空間の関係を体験しよう。
主な出品作品：コンスタンティン・ブランクーシ、リチャード・セラ、カール・アンドレらの立体作品や、ケネス・ノーランドの巨大な絵画、庄田鶴友や川村悦子の屏風作品等。

(3) トライ 3：双眼鏡でみよう

指定位置から双眼鏡を使用し、ロングとクローズアップの視点を交互に体験。
主な出品作品：クリフォード・スティル、吉田善彦等、画面全体と細部の両方を見比べることに意義がある作品。

(4) トライ 5：屏風の中に入り込もう

屏風特有のジグザグ構造に沿って鑑賞し、屏風が生み出す特異な空間性を実際に体験。

主な出品作品：大林千萬樹、小松均等、屏風の形態を生かして描かれた作品。

(5) トライ 4：中身を全部バラしてみよう

一体になっていて一度に全部見られないセット作品を、複製も使って余すところなく分解展示。表裏になっていて通常は同時に見ることができない面も見ることができる。

主な出品作品：マルセル・デュシャンのセット作品等

(6) トライ 6：座ってじっくりみよう

椅子に腰を据えて、目の前の作品の細部を実体顕微鏡やルーペでじっくり集中的に観察する。また巻物作品を右から左に巻を広げる時の動きに従ったあり方で鑑賞する。

主な出品作品：クルト・シュヴィッターズ、加納光於、藤岡佑機等、作品の細部を子細に観察すべき作品と、富田溪仙の絵巻物。

(7) トライ 7：光を変えてみよう

明暗が変わる照明下での、作品の見え方の変化を観察。薄暗い照明に照らされた作品に鑑賞者自らが照明を当ててその変化を見る。また静寂な環境で時間をかけて見たい内省的な作品を鑑賞するよい機会にもなる。

主な出品作品：金箔を全面に使った岸竹堂、森川曾文らの屏風や、瞑想に誘うかのようなマーク・ロスコの作品等

(8) トライ 8：真っ暗な中でみよう

真っ暗闇の中で懐中電灯を使用した探索的鑑賞。作品の輪郭や表面の質感が浮かび上がり、背後の壁面にシルエットが投写される不思議な空間での鑑賞体験。

主な出品作品：篠原有司男、角喜代則、北山善夫、マグダレーナ・アバカノヴィッチらの作品

(9) トライ 9：作品などに触ってみよう

触察可能な作品による触覚体験。素材や表具などを遊んで体験できるコーナーも。

主な出品作品：神山清子、武田浪作品等

(10) トライ 10：作品の仲間になろう

複数並んだ作品の中に入り、作品と同じポーズを取ってその一部となって写真を撮影する参加型コーナー。

主な出品作品：今井祝雄《ヴォワイヤン》等

※ ドロップインワークショップ

作品鑑賞以外の体験として、会場出口では観覧者が随時参加できるコーナーを設置。ものづくりによる美術へのトライ。